

資料 2

第11回利根大堰周辺の
治水と環境検討会
令和5年2月24日

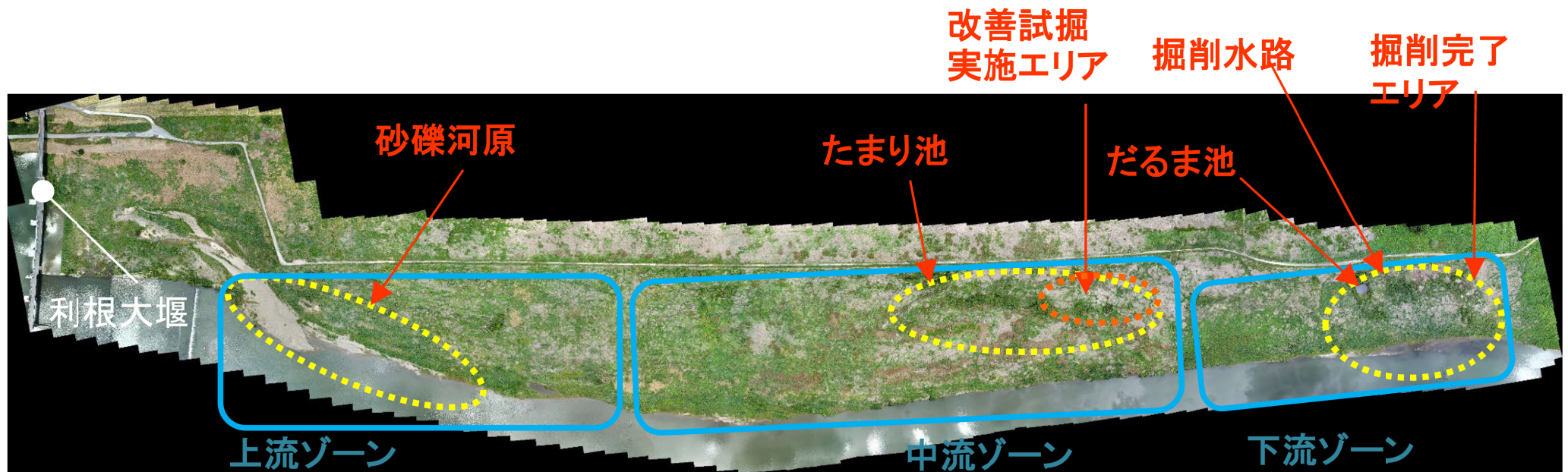
利根大堰上下流の 調査結果(中間)と経年状況について 【令和4年度報告】

目 次

1. 各エリアの位置	1
2. 景観	2
3. 植生	11
4. 動植物	13
5. その他(車両侵入抑止対策実施状況)	21

1. 各エリアの位置

■利根大堰下流左岸域



■利根大堰上流左岸域



2. 景観

(1) 下流左岸：全体

- 下流左岸全体の景観については近年は大きな変化はない。（※掘削範囲は後述）

2019/6/3撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



2021/10/4撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



2022/9/28撮影 ※川俣水位：Y.P.16.6m

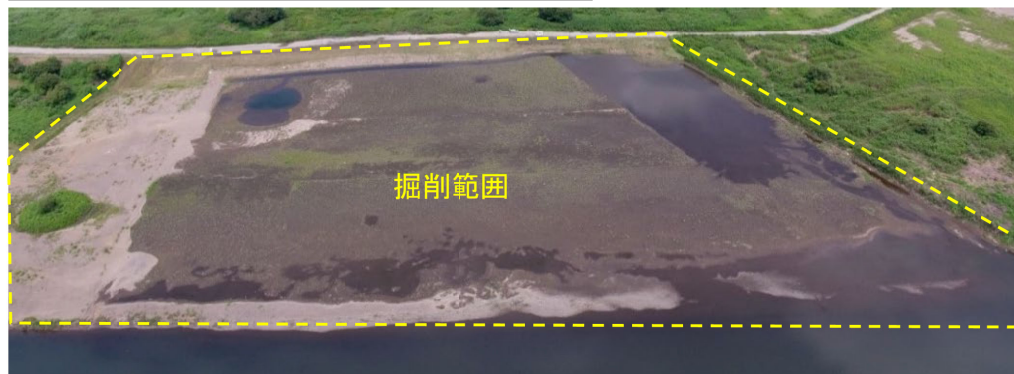


2. 景観

(1) 下流左岸：下流ゾーン ①全景

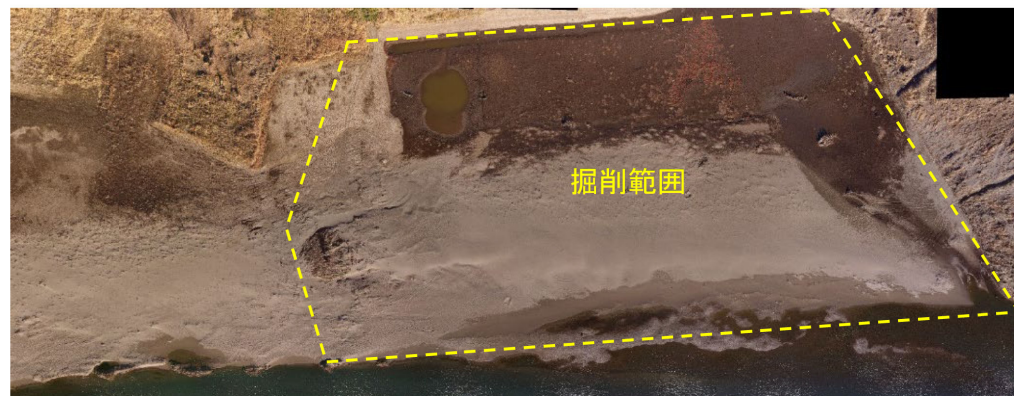
- 掘削範囲については、土砂堆積や植生遷移が進行している。
- 現在はほぼ全域が植生に覆われ、樹林化が進行している部分もある。（※植生は後述）

2017/8/3撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



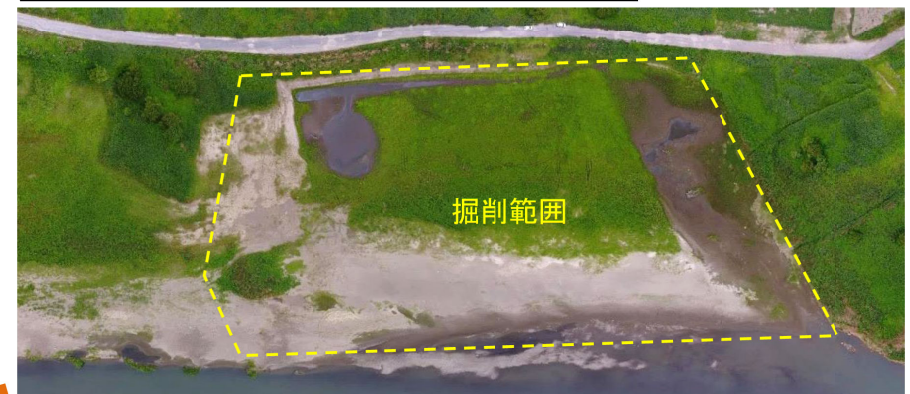
※台風前の状況。ワンドの入り口部分に若干の土砂堆積がある以外は、ほぼ元の掘削形状をとどめている。

2017/12/27撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



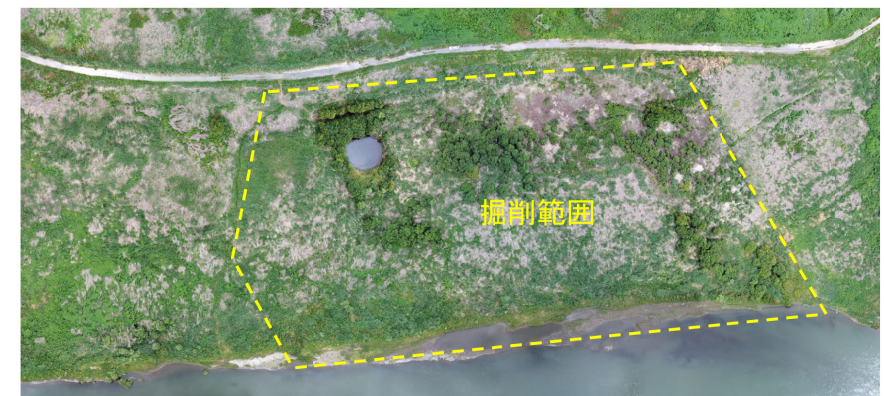
※10月の台風による出水で、現地環境が大きく改変された。

2018/5/30撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



← 2019.10.13東日本台風

2022/5/26撮影 ※川俣水位：Y.P.16.3m



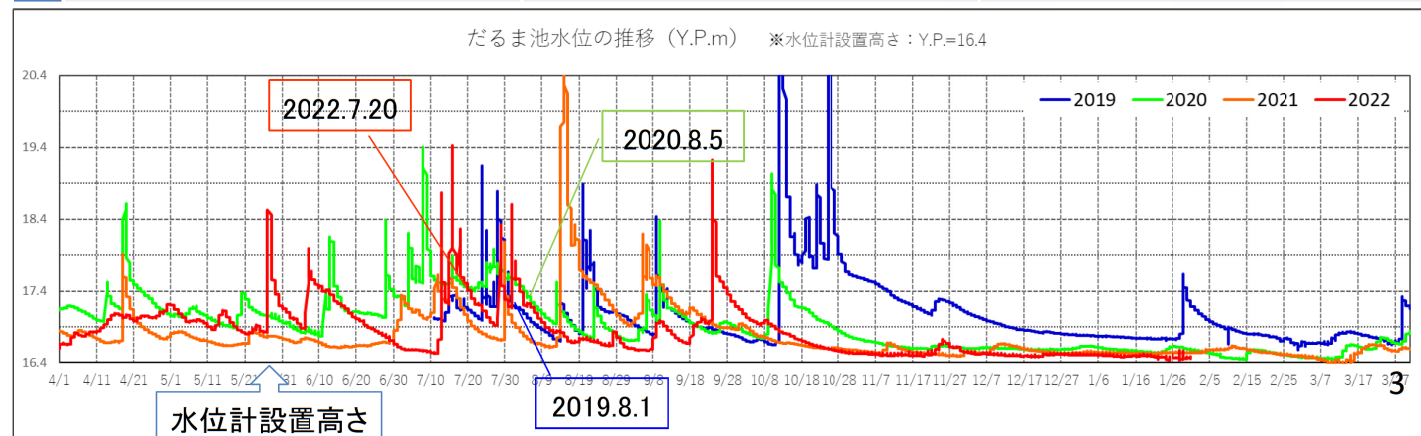
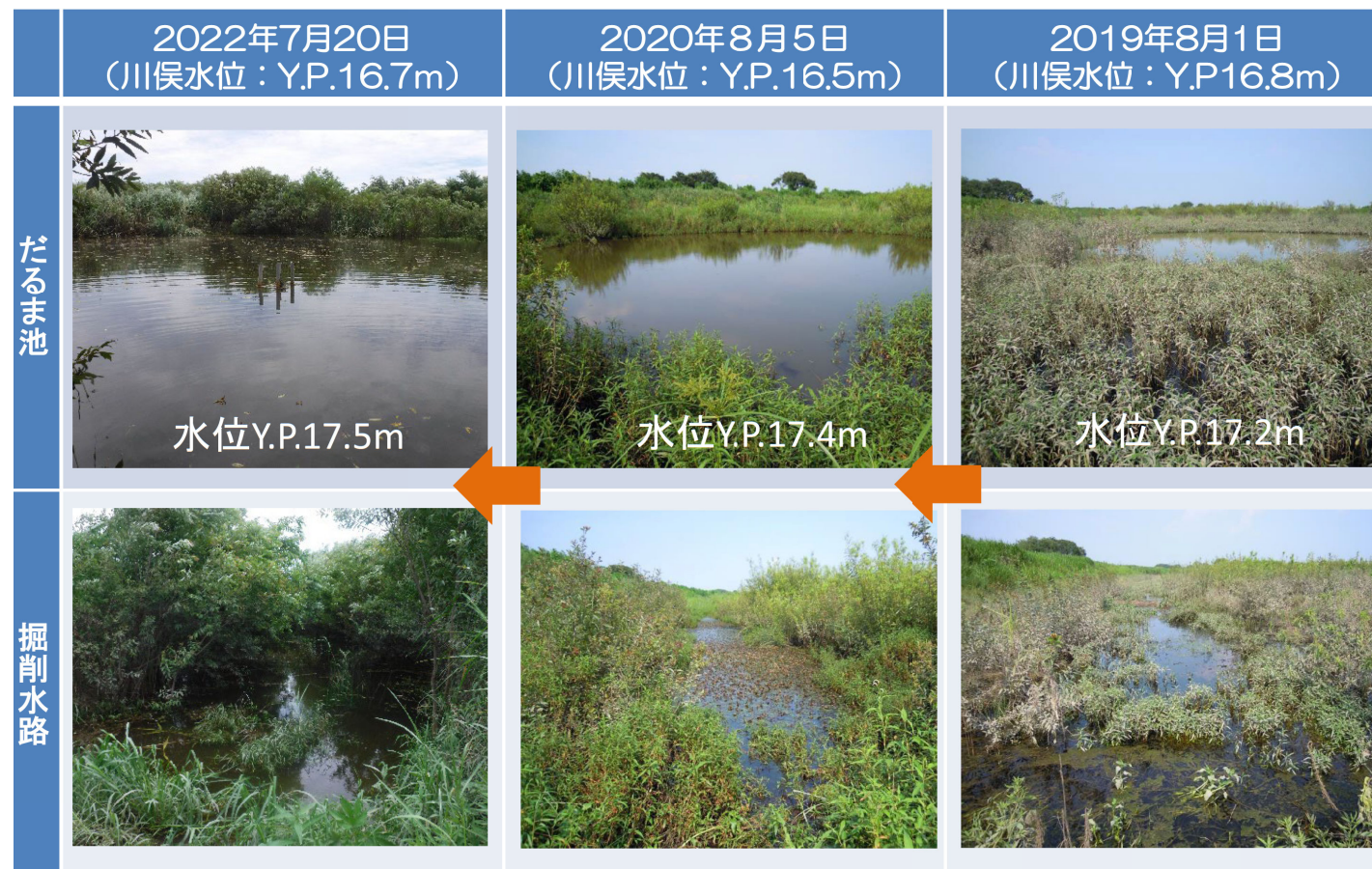
2. 景観

(1) 下流左岸：下流ゾーン ②だるま池・掘削水路

- だるま池は、水位の変動はあるものの、一年を通じてほぼ湛水している。
- 掘削水路は、全体に乾燥化・樹林化が進んでいる。上流端のだるま池に隣接する部分はおおむね湛水しているものの、冬季には干出する時期がある。
- 掘削範囲全体が乾燥化・樹林化しつつある。



冬季に干出した掘削水路(R5.1.31)



2. 景観

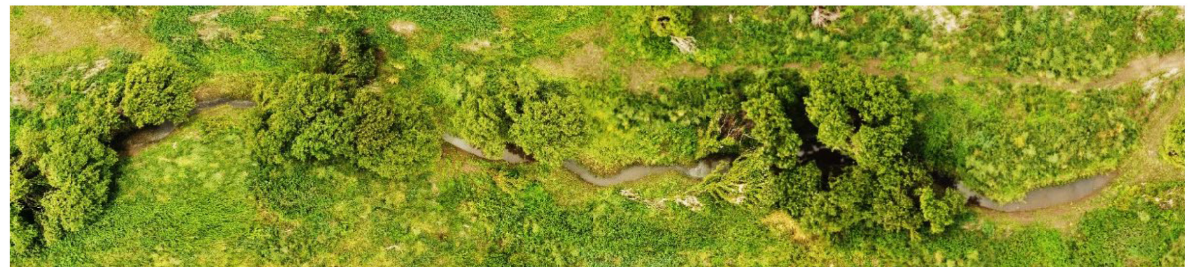
(2) 下流左岸：中流ゾーン(たまり池付近) ①全景

- たまり池は春～夏季はおおむね湛水しているものの、冬季に干出する時期がある。また、周囲の樹林地はやや拡大している。

2020/2/20撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m (試掘直後)



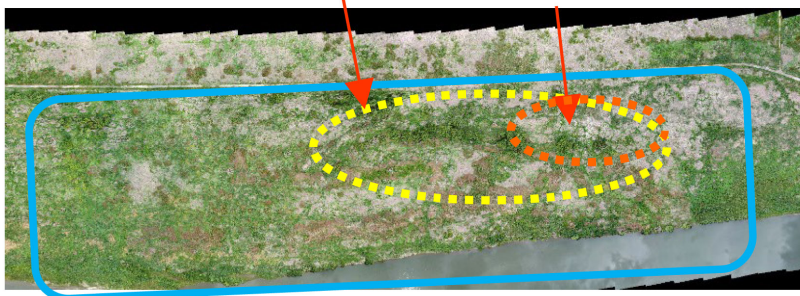
2020/5/22撮影 ※川俣水位：Y.P.16.6m



2022/5/26撮影 ※川俣水位：Y.P.16.3m



たまり池 改善試掘
実施エリア

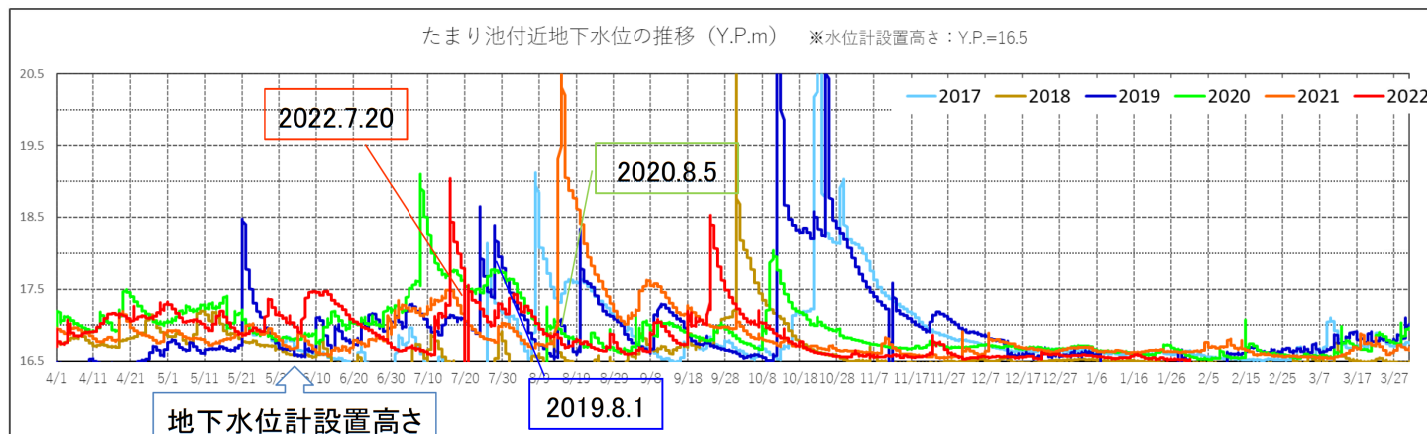


中流域ゾーン

2. 景観

(2) 下流左岸：中流ゾーン(たまり池付近) ②たまり池

- 春季～秋季はおおむね湛水している。
- 冬季は干上がる範囲もあるため、再生対策として2019年12月～2020年1月に試掘を実施した。その結果、試掘直後の2020年1～3月は水面が確認されたが、2021年～2023年の1～3月は再び乾燥している期間が長い状態となっている。
(確認結果は後述する)



冬季に干出したたまり池(2023.1.31)

2. 景観

(3) 下流左岸：上流ゾーン 全景

- 砂礫地については、年により冠水範囲や植生に覆われる範囲に違いはあるものの、おおむね維持されている。

2021/5/26撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m



2022/5/26撮影 ※川俣水位：Y.P.16.3m



2019/6/4撮影 ※川俣水位：Y.P.16.2m

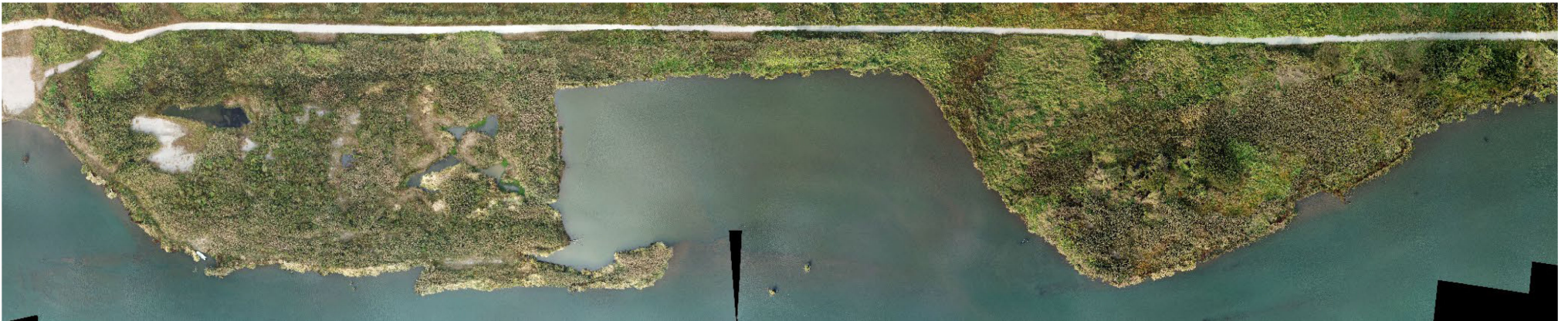


2. 景観

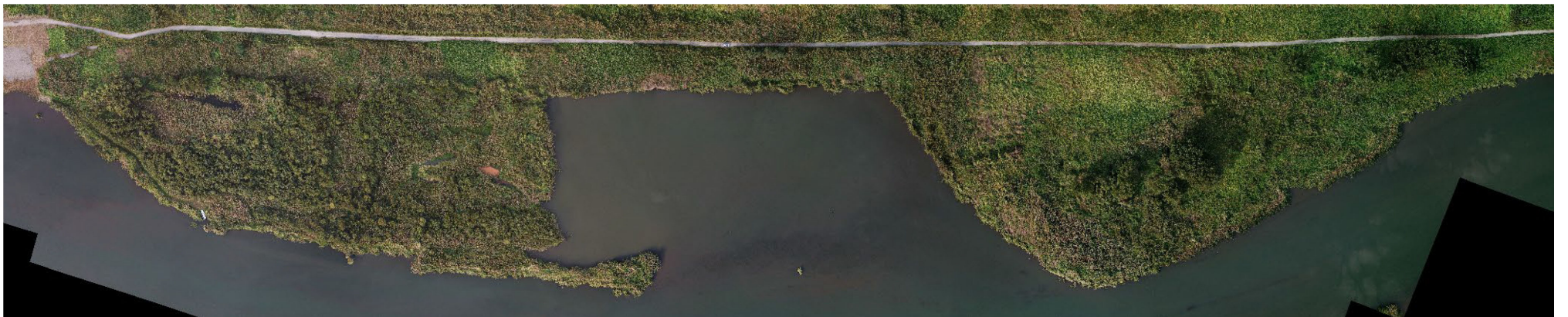
(4) 上流左岸 全景

- 全体的に植生遷移や樹林化の進行が認められ、開放水面が縮小している。
- 当該範囲の下流部分は将来の掘削を予定するが、上流部分の水面縮小状況を踏まえて実施する必要がある。

2020/10/28撮影 ※川俣水位:Y.P.16.3m



2022/9/28撮影 ※川俣水位:Y.P.16.6m



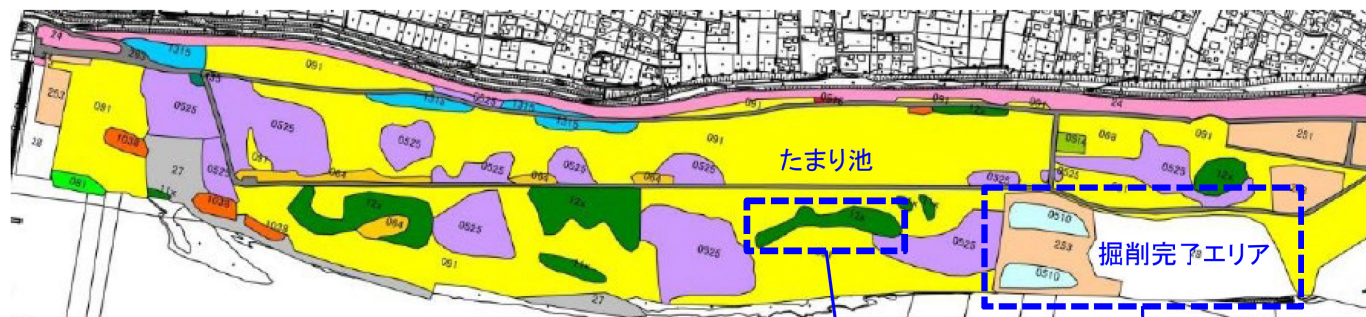
3. 植生

(1) 下流左岸

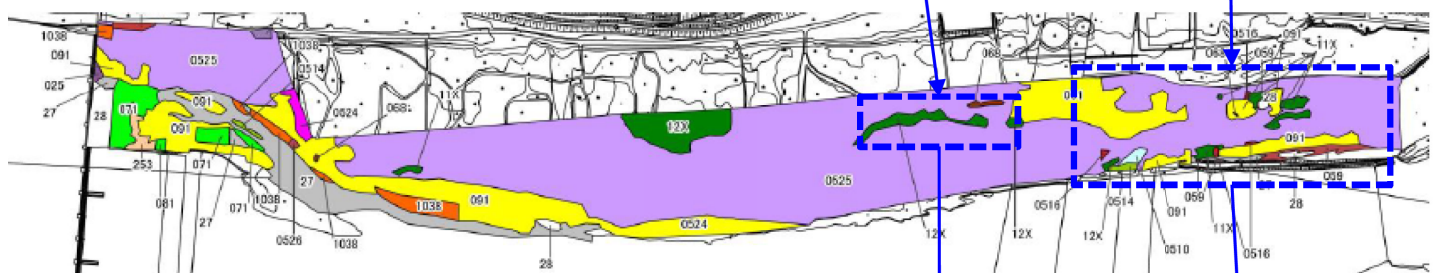
- 全域的に、多年生草本のオギと、その上に一年生草本のつる性植物であるカナムグラが乗った状態の範囲が広がり、カナムグラの優占面積は年々増えている。また、一部では一年生草本のつる性植物の特定外来生物であるアレチウリの繁茂エリアが拡大している。
- 掘削完了エリアは水路沿いに湿性草本のツルヨシ群落形成され、その他の範囲はヤナギ低木林が形成されつつある。

凡例	
オオフサモ(025)	ツルヨシ群落(081)
オオイヌダテ-オオクサキ群落(0510)	オギ群落(091)
メシバ-エノログサ群落(0514)	キシウスズメノヒゲ群落(1020)
オオブタクサ群落(0516)	シナダレスズメガヤ群落(1038)
アレチウリ群落(0524)	ヤナギ低木(11X)
カナムグラ群落(0525)	ヤナギ高木(12X)
ウルマメ群落(0526)	ウコ群落(136)
ヤナギタデ群落(059)	人工裸地(253)
セイタカアワダチソウ群落(068)	自然裸地(27)
ヨシ群落(071)	開放水面(28)
カゼクサ-オオバコ群落(0164)	シンジュ群落(208)
ウキヤガラ-マコモ群落(101)	ヒメガマ群落(104)

2017年度



2021年度



2022年度

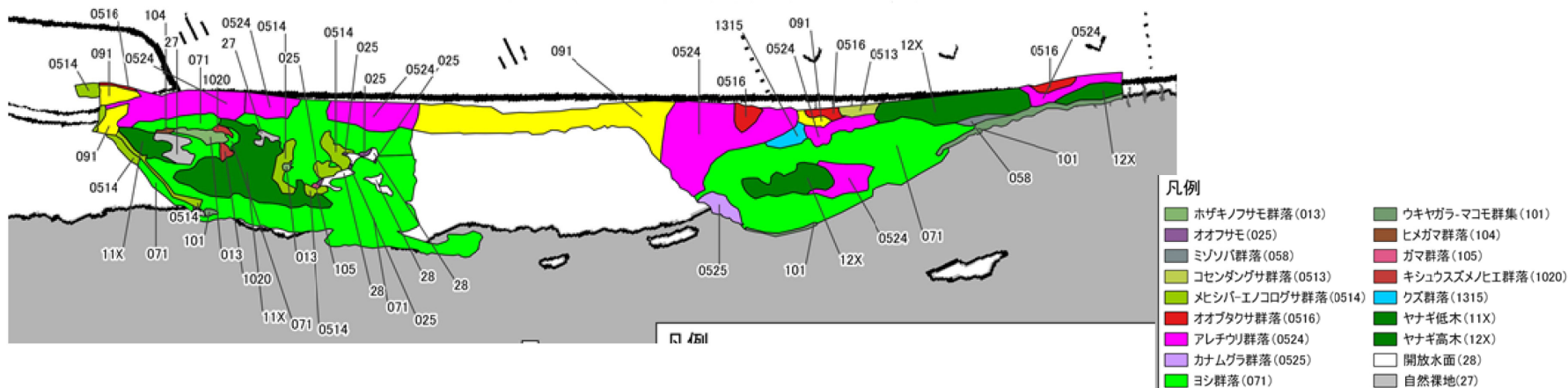


3. 植生

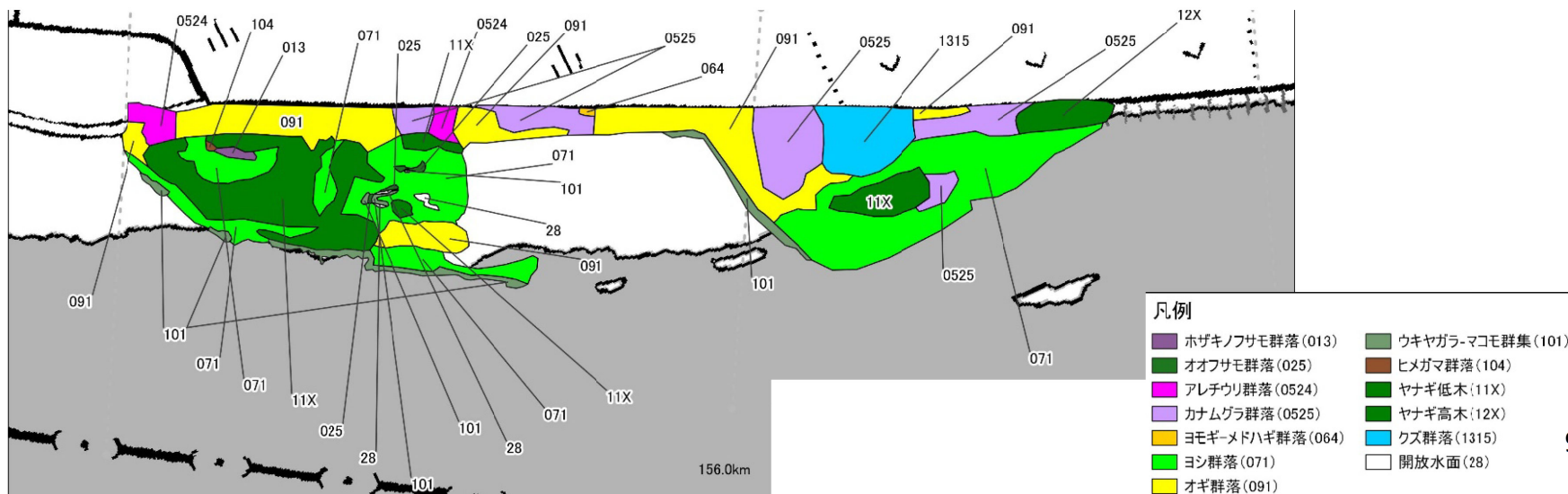
(2) 上流左岸

- 全域的に、多年生の抽水植物のヨシとヤナギ低木が広がっている。堤防側に近い位置では、オギやカナムグラなどのより乾燥した立地に生育する植物が分布している。
- 昨年度から今年度を比較すると、アレチウリ・カナムグラ・クズの分布範囲に変動がみられるが、いずれもつる性草本で生育範囲に変動が大きい種群であり、各種の生育環境も同様であるため、環境条件に大きな変化はないと考えられる。ヨシ・ヤナギ低木林が分布する湿地の範囲にも大きな変化はないが、開放水面は縮小している。

2020年度



2022年度



4. 動植物

(1) 下流左岸: 下流ゾーン(だるま池・掘削水路周辺) ※2022年度: 春～秋季



4. 動植物

(2) 下流左岸: 中流ゾーン(たまり池周辺) ※2022年度・春～秋季



参考: ホンドタヌキ(秋季)



注目種: アカネズミ(秋季)



春季(2022.5.24-26)



参考: コクワガタ(夏季)



夏季(2022.7.20-22)



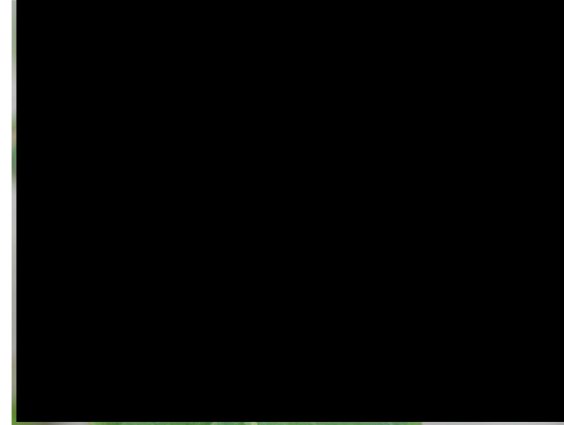
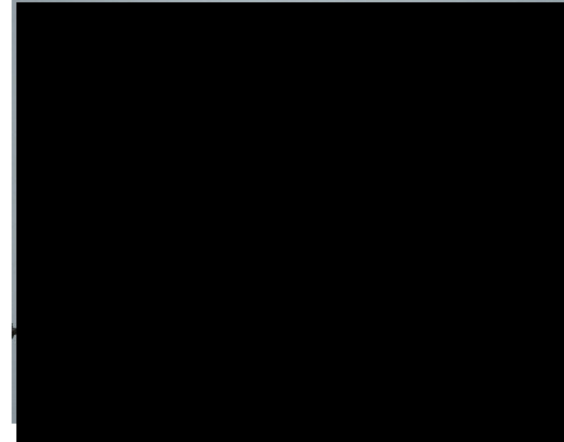
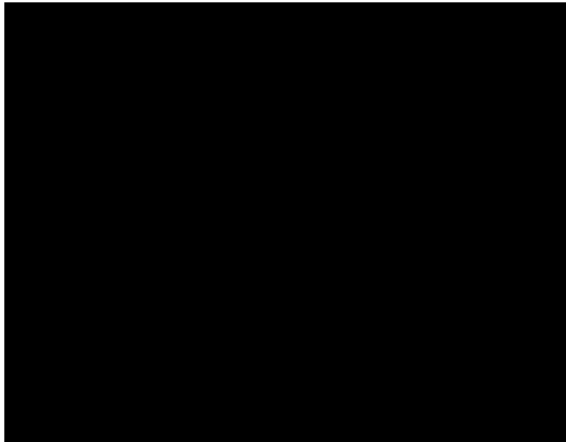
参考: ギンヤンマ(秋季)



秋季(2022.10.4-6)

4. 動植物

(3) 下流左岸: 上流ゾーン(砂礫河原周辺) ※2022年度: 春～秋季

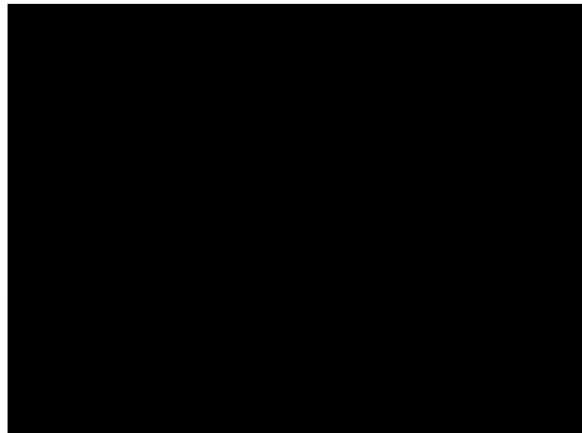


4. 動植物

(4) 上流左岸(保全ゾーン周辺) ※2022年度:春～秋季



参考: ホンドタヌキ(夏季)



春季(2022.5.24-26)



指定外来種: アカミミガメ(春季)



特定外来種: ウシガエル、
指定外来種: ヌマガエル(夏季)



夏季(2022.7.20-22)



注目種: チョウトンボ(夏季)



注目種: ハグロトンボ(夏季)

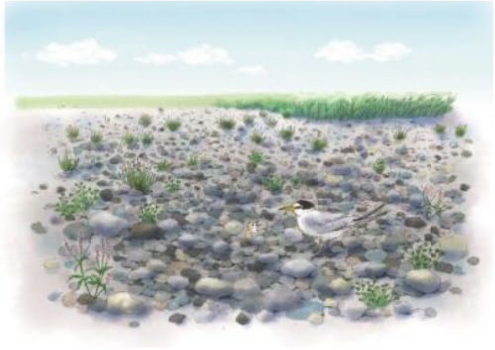


秋季(2022.10.4-6)

4. 動植物(補足)

保全・創出に関わる注目種の確認状況

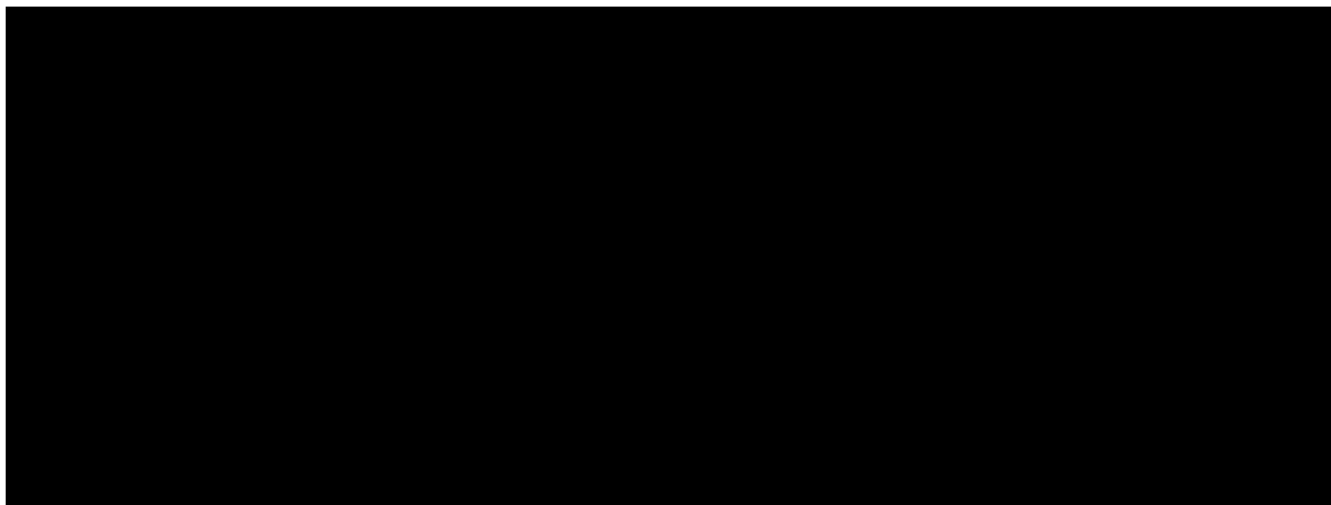
- 利根大堰左岸の高水敷では、治水と一体となった環境の保全・創出に際し、目指す環境タイプとイメージを共有してモニタリングを実施している。
- 保全・創出する環境タイプを指標する種を複数挙げて「注目種」としている。
- 注目種の中でも、目指す環境タイプを象徴する種は「 」、「カワラ 」、「 」、「 」の4種がある。このうち、これまでの掘削との関連性が強いニホンアカガエルについて、以下に経年的な確認状況を記す。

環境タイプ		環境イメージ
砂礫河原		
湿地	湿性草地	
	止水域（ワンド）	
	樹林に囲まれた水辺	
	樹林（ヤナギなど）	
	止水域（たまり）	

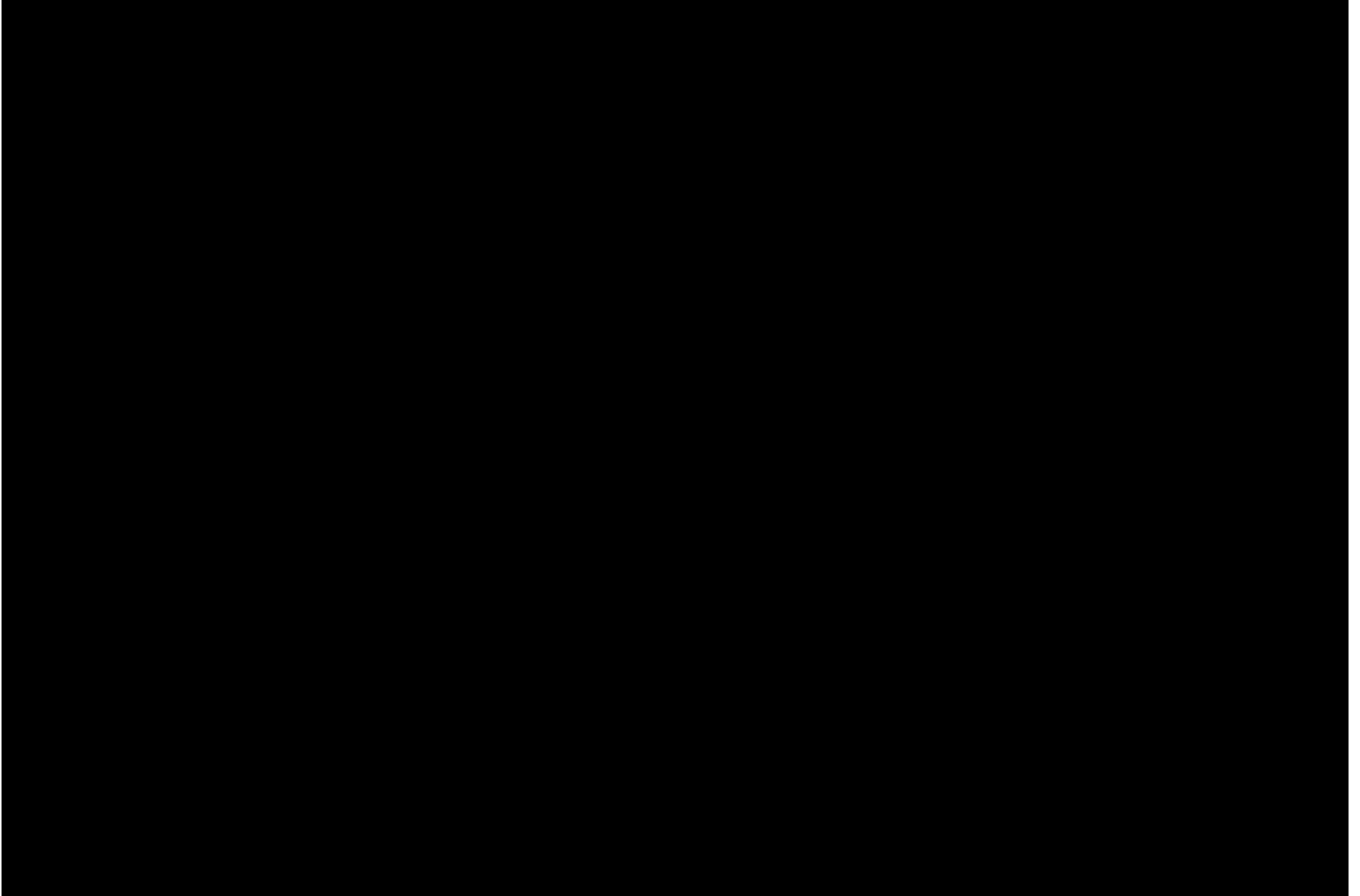


本種は、水域と陸域の両方を必要とし、湿地環境として特に早春季でも[redacted]が存在する環境を指標する。以下に、利根大堰周辺における本種の確認状況を経年的に整理した。

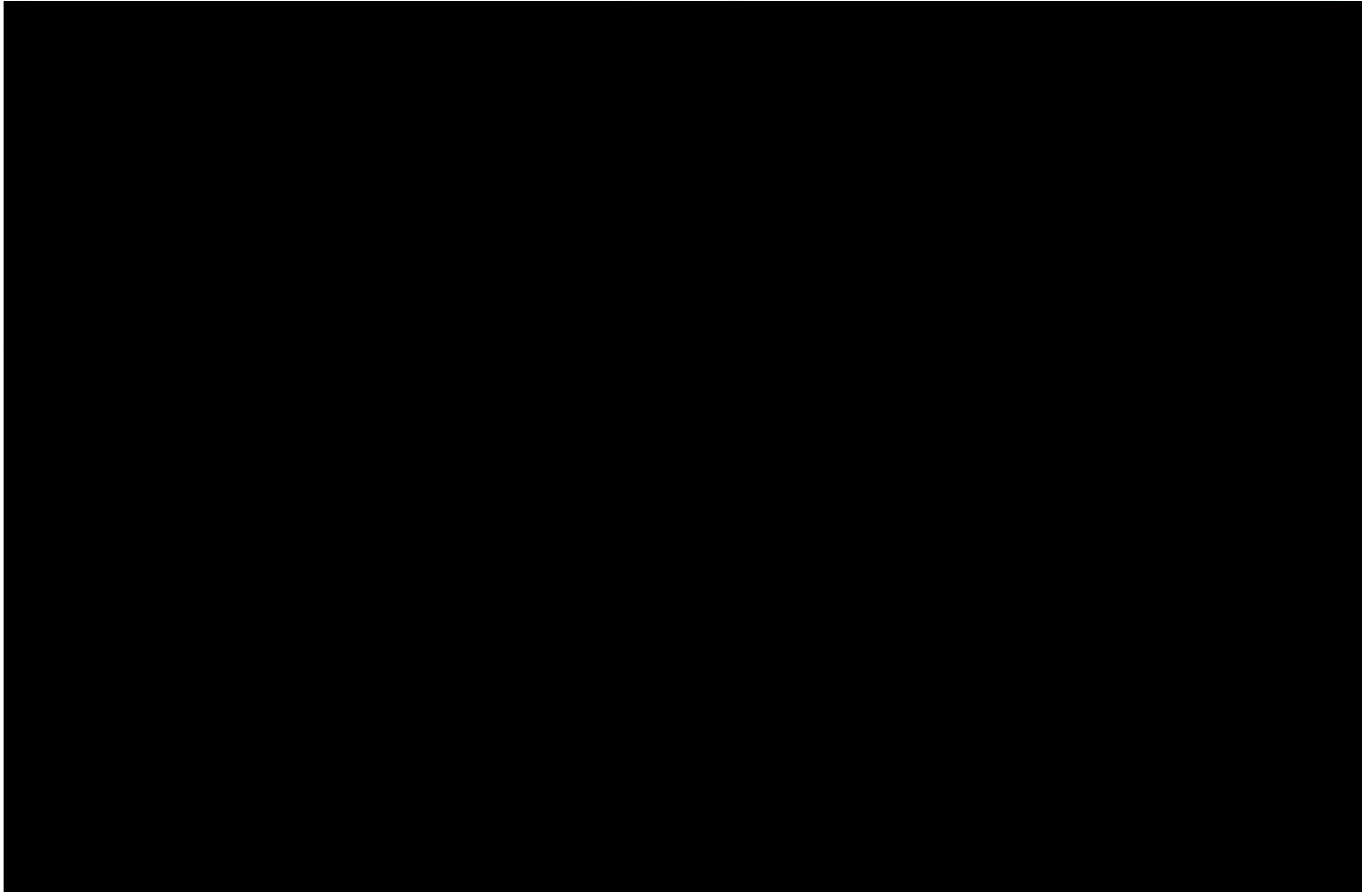
R1[2019]	利根大堰下流地区で[redacted]、上流地区で[redacted]確認された。利根大堰下流地区の掘削完了エリアにおいて[redacted]を確認した。
R2[2020]	利根大堰下流地区で[redacted]、上流地区で[redacted]確認された。なお、両地区で既に[redacted] [redacted]が確認された。
R3[2021]	利根大堰下流地区で 50 個、上流地区で[redacted]確認された。なお、利根大堰下流地区の「たまり池」及び「掘削完了エリア」では、湛水深が浅く[redacted]は限られていた。
R4[2022]	利根大堰下流地区で 28 個、上流地区で 72 個確認された。なお、利根大堰下流地区の「たまり池」及び「掘削完了エリア」では、湛水深が浅く[redacted]は限られていた。



【XXXXXXXXXX: 下流左岸】 2022年3月10日時点



【: 上流左岸(保全ゾーン周辺)】 2022年3月10日時点



5. その他(車両侵入抑止対策実施状況)

2021年度の侵入は、水位が低い時期に、ゲート外の侵入防止柵のないエリアから、浅瀬や中州を伝って掘削完了エリア→たまり池へと侵入したものと推測された。このルートは過去にも侵入例があり、図中★印(黄)部分に看板とロープ、★印(赤)部分に柵と看板を設置していたが、出水等によって流失している。

2022年度は明確な侵入形跡は確認できなかったが、これまでの経緯を踏まえて、2022年11月24日に図中★印(ピンク)部分に新たに侵入防止柵を設置した。

